

音のサロン委員会 2012・13年活動報告

音のサロン委員会担当理事

アキュフェーズ株式会社 高松 重治

旧専門部会が音のサロン委員会に改称してはや1年が経過した。本委員会活動は、実際の音をお聴かせする音のサロンWGと次世代の音源と目されるPCオーディオWGの2つで活動しているが、前者の音のサロン委員会の音のサロンWGでは煩雑なので「試聴体験WG」と改称して活動を続けている。暫くこれらの方針に沿って活動を継続してゆくが、これらの活動の成果が如何に進展してゆくかはオーディオ・ユーザーの選択するところであると信じ、少しずつ方向修正してハードウェアの装置メーカーと音源側であるコンテンツ・ホルダーそしてユーザーの三者の方向性を見出だし、音のサロン委員会活動がオーディオ産業の一里塚となれば幸いである。

定例になっている千代田区立日比谷図書文化館での「音のサロン」ではコンテンツ側に協力を仰ぎ、オーディオ・ユーザーのみではなく広く一般に求め、オーディオ装置で聴く音楽ファンの発掘に繋がっている。会場の都合から千代田区のホームページなどで参加募集をした後、オーディオ協会のホームページで参加者を募る手はずであるが、協会に回ってくる分がなくなる程大盛況である。

PCオーディオ講座の場合、CDやSA-CDの様な規格化されたシステムではないので、ユーザーの受講希望者が多く、システムが分かっても実際のダウンロードやPCを用いたソフトウェアによるプレーヤーも複雑であり、決定打が未だ定まらずJASにはこれらを取り纏めてゆく責務があるだろう。またコンテンツ・ホルダー各社は、DRM (Digital Rights Management : デジタル著作権管理)問題が解決しない限りこのままで進んでゆくとは思われない。

方式自体に制限がないPCオーディオは、実際には有限である資源を有効に使わなければならないのだが、ユーザーは「数字が大きい方が良いに違いない」という一般論から選択するので、圧縮方式、サンプリング周波数、ビット数などと青天井はどこまで行くか分からない。これらは供給側にも大きな責任がある。このように DRM 問題と青天井規格(規格が定まらない状態)ではユーザーやコンテンツ・ホルダー(音源提供者)を含むシステム構築側に問題山積である。

ここでこれらの問題に終止符を打つか否かは全く不明であるが、大容量であり DRM も確立されているところの Blu-ray™は両方の問題解決が窺えることから、これが救世主なるかも知れない。詰まる所、再び(規格が)閉鎖されたディスクに落ち着くかもしれないのだ。ただ問題点としては DVD-Audio や SA-CD のように、Audio 専用のトラバス・メカ、ローディング・メカの供給、更にデジタル接続が簡便になされないと良いシステムであっても普及にブレーキが掛かりかねない。

これら Blu-ray 関連のオーディオは 10 月お台場で開催される秋の JAS オーディオ・ホームシアター展 2013 でご確認願いたい。

前回 JAS Journal 2012 Vol.52 No.5(9月号)で活動予告を申し上げたが、これらの詳細なる報告を試聴体験WGの小嶋康主査、PCオーディオWGの庄子清美氏に紹介していただく。